

特集

DMAATがやってきた!!

院長伝言板	8 P
オアシスコンサート開催!	8 P
大腸・肛門外科	7 P
裂肛・肛門狭窄のおはなし	6 P
砺波心臓サポーターチーム	6 P
心臓病の栄養教室のご紹介	5 P
医療情報管理室のご紹介	5 P
医療安全管理室の役割	4 P
部門紹介	2・3 P

市立砺波総合病院憲章

わたくしたちは、市立砺波総合病院の職員であることを誇りとし、愛と奉仕の精神のもとに、病気で悩める人々を癒すことに互いの心を結集し、この憲章を定めます。

市立砺波総合病院は

- 1 患者さんの権利を尊重します
- 1 医療の安全を追求し 信頼される医療を提供します
- 1 医療・福祉・介護・保健分野との連携に努め 地域医療の推進に努めます
- 1 職員が働く喜びと誇りの持てる職場をめざします
- 1 健全な病院経営に努めます

理 念

地域に開かれ
地域住民に親しまれ
信頼される病院



市立砺波総合病院
Tonami General Hospital

〒939-1395 富山県砺波市新富町1番61号
TEL 0763-32-3320(代表) FAX 0763-33-1487(総務課)
E-mail tgh-somu@city.tonami.lg.jp
ホームページ <http://www.city.tonami.toyama.jp/tgh/>

特集

DMATがやってきた!!

Disaster Medical Assistance Team

集中治療・災害医療部

●DMATって言葉を聞いたことありますか？

DMATとは「災害^{※1}急性期に活動できる機動性を持ちトレーニングを受けた医療チーム」と定義され、災害派遣医療チーム〔Disaster Medical Assistance Team〕の頭文字をとってDMAT（ディーマット）



災害訓練の様子

と呼ばれています。東日本大震災や熊本地震、記憶に新しい大阪府北部の地震においてもDMATが派遣され災害対応を行ったほか、最近ではテレビドラマでも取り上げられることもあり世の中の認識も徐々に高まっているのではないしょうか。

DMATはどの医療機関にも存在するチームではありません。都道府県が指定する災害拠点病院に対し、DMATを保有し派遣体制にあることを義務付けています。富山県においては当院を含めた8施設の医療機関が災害拠点病院に指定されており、平成30年8月末で計22チーム、砺波総合病院としては3チームを編成可能な（医師4名、看護師6名、業務調整員6名）DMAT隊員が所属しており、院内の災害対応体制の整備、病院訓練実施のほか、国や県、市の災害訓練にも参加することで個々の技能維持に努めています。

●中部ブロックDMAT実動訓練（平成30年10月13日実施）



中部ブロック DMAT 実施訓練の様子 1

富山県DMATは中部ブロック（9県）に所属し、毎年9県が持回りで大規模な実動訓練を行っています。平成30年度は富山県が主催し「砺波平野断層帯東部を震源とするM7.0の地震が発生した」という想定で実際に予測される人的被害、物的被害を基にDMATとして「どのような災害対応が



中部ブロック DMAT 実施訓練の様子 2

必要になるか?」という観点から訓練が行われました。県内の各医療圏においては災害拠点病院が中心となり訓練内容を想定し、砺波医療圏は「災害発生後4日目としてDMATが撤収し、医療救護体制へ移行する^{※2}亜急性期の時期を想定した訓練」が実施されました。

当日は全国から106チーム総勢1200名が富山県に、うち12チーム61名が砺波医療圏に参集し、治療の優先順位を決める「トリアージ」が迅速的確に行われるなど、当

院をはじめとする近隣病院との連携のもと、訓練として避難所への支援が行われました。

●熊本での救護活動から地域の活動を想定する!

熊本地震では当院所属のDMATチームは医療救護班として南阿蘇村へ派遣され、医療救護体制の撤収に目途をつけるという時期での活動を行いました。当時の南阿蘇村は熊本市内へ繋がる道路に架かる橋が崩落、結果的に大きな交通障害が生じ、陸の孤島と化していたため、地元の平常時の医療体制へ引き継ぐための調整が大変難しかったことが思い出されます。

砺波医療圏においても訓練で想定するような大地震が起きると、南阿蘇と同じような状況に陥る可能性があります。そのような状況において、当院が自力のみで病院機能を継続させ、多数傷病者を受入れ、入院患者さんの命を守り続けるということは非常に困難であり、DMATの支援が必要になると予想されます。

当院は砺波医療圏唯一の災害拠点病院として有事の際は関係機関（行政、厚生セン

ター、消防、警察、自衛隊等）と連携をとりながら砺波医療圏における医療を守る責務があります。今回の中部ブロックDMAT実施訓練が砺波医療圏の災害医療対応能力の向上に繋がることが期待されます。

※1 急性期とは……発災初期のこと。
 ※2 亜急性期とは……急性期の段階を過ぎて現状が安定しはじめた状態のこと。



熊本地震への支援に感謝するため くまモン来院。
 後方列が砺波総合病院等の医療救護班

患者さん一人ひとりのために



医療安全管理室
を紹介します。

医療安全管理室の役割

医療安全は、医療の質にかかわる重要な課題であり、医療の基本となるものです。患者さんに安全な医療を提供することは、医療機関・医療従事者にとって責務であり重要な課題です。職員一人ひとりが医療安全の必要性・重要性を認識し、安全な医療を行えるよう医療安全管理室を設置し、医療事故防止と安全管理推進の活動を組織横断的に行っています。

医療安全管理室は、医療安全部長、医療安全管理者、セカンドマネージャー（医薬品・医療機器の安全管理者）、サブマネージャー（各部門の所属長又は現場統括者）、作業部会で構成されています。

作業部会は、巡回点検・教育研修・広報・マニュアル検討・医療機器管理・BLS※1の6グループに分かれ、年間を通じて活動しています。

巡回点検部



医療安全の観点から各部門を巡回し、医療安全管理マニュアルの遵守状況を点検しています。

教育研修部



医療安全に関する全職員対象の研修会及び職種に応じた専門的な研修会を開催しています。

広報部



医療安全に関する職員への啓発のため、広報紙を発刊しています。

マニュアル検討部



医療安全管理マニュアルの作成及び見直しを行っています。

医療機器管理部



医療機器の安全使用及び適正運用について調査・検討を行っています。

BLS部



院内での緊急事態に迅速に対応できる体制整備として、事例検証やBLS※1研修を行っています。



患者さんへのお願い

患者間違い防止のため、患者さんには「自ら」お名前を名乗って頂くことや、服薬や注射を実施する際に患者さんご自身による最終確認をしていただくなど、患者さんにも積極的に医療安全にご協力をお願いいたします。

※1 BLSとは一次救命処置の略称
(Basic Life Support)

医療情報管理室のご紹介

医療情報管理室 診療情報管理士 竹田 智代



医療情報管理室は、主に「情報の管理」、「情報の点検」、「情報の活用」の役割を担っている部門になります。



■ 情報の管理とは

患者さんの治療情報を一元的に管理することです。

当院は電子カルテを2005年から導入しており、14年目を迎えました。また、2014年から診療記録電子保存システムが導入されたことで、紙で発生する医療記録や同意書などをスキャナで取り込むことで、患者さんの治療情報を一元管理できるようになりました。院内のどこで診療を行っても、必要時に必要な情報を確認できるようになり、診療がスムーズに行われるようになりました。

電子カルテシステムを導入する前は、紙のカルテによる運用でした。紙は、劣化したり、紛失したり、文字が薄くなるなどの保存性の面でのデメリットが多くありました。また、法的に診療記録の保存は5年とされていることから、それ以前の治療がわからないなどというデメリットがありました。今は、電子カルテになってからの治療の情報（経過、検査結果）があります。紙カルテの時代よりもはるかに長い期間の治療情報をみることができ、通院歴のある方の診療に活かされています。

■ 情報の点検とは

診療記録は、医療行為が正確に記録されている必要があります。そのため、必要な記録が記載されているか、書類が揃っているか点検を行っています。

■ 情報の活用とは

日本では、医療の発展のためにさまざまな研究が行われています。その研究のために必要な情報を提出する業務があります。

たとえば、「がん登録」があります。罹患数の把握、検診事業の推進、がん治療把握と生存率、患者さんの病院選択の方法としてなど、様々ながん対策のために活用されます。

医療情報管理室の職員



現在は室長と診療情報管理士、事務補助の14名で構成されています。医療情報管理室の職員もチーム医療の一員として、適切な診療を行えるよう支えています。また、患者さんの大切な治療の情報を収集、活用することで日本の医療が発展するための役割を担っています。

心臓病の栄養教室のご紹介



砺波心臓サポートチーム

- ① 自分に必要なカロリー計算の仕方
- ② アルコールやお菓子の選び方
- ③ 家庭での減塩の仕方
- ④ 外食時の減塩の仕方
- ⑤ 糖尿病との関係 など

心臓病と聞くと、大変な病気になった、治らないのではないかと不安を抱くことがあると思います。しかし、心臓病であっても生活習慣を正し、適度な運動を継続することで、健康寿命を伸ばすことができます。

数ある心臓病の中でも一番多い病状は、心不全です。その要因の第一位は、塩分・水分管理の不徹底といわれており、日常生活での減塩や水分摂取の仕方が予防のポイントになります。また、当院の外来心臓リハビリテーションに通う患者さんで一番多い質問は食事（特に減塩）に関するもので、「入院中に管理栄養士から受けた栄養指導を、自宅でいざ実践してみようと思っても上手くできず、心臓病が悪化するのではないか」という声も聞かれました。そのような疑問や心配の声を減らすために、砺波心臓サポートチーム（循環器内科医、看護師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師、臨床工学技士、薬剤師）が一丸となり、昨年10月から「みんなが学ぶ 心臓病の栄養教室」を開講いたしました。



心臓病を悪化させない食事方法の内容となっております。

また、心臓病が悪化しやすい夏や冬に向けて、6月は熱中症予防の話、12月はクリスマスやお正月の食事の摂り方など、テーマをしばりお話ししています。6回を1サイクルとし、全6回に参加された方には終了証と減塩に関する粗品をお渡ししています。終了証を貰われても、何回でも参加できます。

参加者からは、「水分の取り方や計算、味付けの仕方が分かった」「薬味を利用できるとは知らなかった」「家でも活用できそう」などのお言葉をいただきました。何回も繰り返し参加される方もおられます。教室では、質問を受ける時間を設け、ご自宅での素朴な疑問にもお答えしています。教室には、当院で心臓病の診断がついている方であればどなたでも参加でき、ご家族も一緒に受講できます。なお、予約が必要ですので、参加してみたいと思われた方は、医師や看護師へ相談してください。

砺波心臓サポートチーム 理学療法士

山本友佳子



栄養教室風景

普段、なかなか聞けない管理栄養士の話の聞くことができますので、この機会をぜひ活用してみてください。教室には、看護師と理学療法士も同席しており、食事以外の相談にもお答えできるようにしています。薬のことや体調面で心配なこと、運動に関する質問にもお答えしています。

心臓病は上手く付き合っていける病気です。皆様の心臓病や健康管理のお役に立てるように、砺波心臓サポートチームはチーム一丸となり活動していますので、ぜひご利用ください。

裂肛・肛門狭窄のおはなし

はじめに

おしりの悩みはさまざまです。多くの場合、誰にも相談できず、自分でなんとかしようとしているのではないのでしょうか？時にはギリギリまで頑張っていることもあるかと思います。どんな疾患も早め早めの対応が肝要です。今回は、裂肛、いわゆる切れ痔を中心にお話します。

原因

原因はいくつか考えられていますが、複数の要因が混在していることも多く患者さんによってさまざまです。

- ・ 肛門上皮の損傷：硬い便や、下痢の排泄時に損傷する
- ・ 肛門上皮の虚血：肛門後方の血の流れが少なく、裂肛が好発しやすい
- ・ 肛門管圧の上昇：圧の上昇により血流が少なくなり裂肛が生じやすい
- ・ 肛門腺の感染：肛門腺が感染することで裂肛が誘発される

症状

出血は比較的少量です。排便の際に痛みを感じるのが一般的ですが排便後もしばらく続くことがあります。また、慢性化してくると、傷の奥側に、肛門ポリープ、出口側に見張りいぼを形成し、違和感、脱出、掻痒感など生じることがあります。さらに慢性化が続くと最初はすり傷程度だったものが潰瘍を形成し、痔ろうや肛門狭窄となることがあります。

分類

急性期と慢性期に分けられます。急性期であれば、単純な浅く狭い機械的損傷ですが、慢性期になると、幅も広く、傷の深さも深くなり、さらには前述のポリープやいぼを形成します。



治療

急性裂肛であれば、原因となる排便習慣を改善し、薬剤などを用いる保存的治療が基本となります。手術にいたるのはおよそ5~20%程度とされています。

保存的治療 まずは排便習慣、生活習慣の見直しです。便意を感じたときに便をしないと、便が硬くなってしまいます。その結果、便の固い部分が肛門上皮を傷つけることとなります。排便時間は3分以内。必要以上にいきまないことも大切です。また、便秘の方は食物繊維をしっかりとって、十分な水分を摂取することも大切です。毎日適度な運動を心がけ、同じ姿勢をとり続けないようにしましょう。入浴でお尻を温めることも大切です。

外科治療 基本的には慢性裂肛で、肛門狭窄を伴う場合が対象となります。

1) 肛門拡張術

メスは使わず、手動的に拡張する方法で、比較的軽症の方に対して施行します。

2) 側方内肛門括約筋切開術

狭くなった肛門括約筋の一部を切開することで肛門を広げる手術です。

3) 肛門皮膚弁移植術

裂肛部やそれに伴う肛門ポリープ、見張りいぼを切除します。そのまま縫い合わせると、切除した分だけ狭くなってしまいますので、切除した部分に近傍の皮膚を移動させて縫合する方法です。

まとめ

いかがだったでしょうか？おしりの悩みは生活に直結しているもので、発症するとなかなかつらいものがあります。しかしながら場所が場所だけに相談しにくく、ましてや誰かに見せることには抵抗がある！そうやって我慢して、裂肛を繰り返すと、排便時に痛みを恐れ、排便を控えてしまいます。結果として便が硬くなって、さらに切れて痛むといったような悪循環に至り、慢性化してしまいます。さらに繰り返していくと慢性化が進み、徐々に肛門が狭くなり、そうするとさらに排便に難渋してしまう。そうなる手術しなくちゃいけない。

そうなる前に、ぜひ一度お気軽にご相談いただければ幸いです。



オアシスコンサート開催!



8月3日、当院において「患者さんのためのオアシスコンサート」を開催し、「合唱団となみ」による心が安らぐコーラスを入院患者さんや市民の皆さんに楽しんでいただきました。コーラスでは、「有楽町で逢いましょう」を皮切りに「涙そうそう」や「ふるさと」などおなじみの曲が披露され、来場者は合唱団といっしょに楽しそうに口ずさんでいました



院長伝言板

油断大敵! 災害に備えましょう。

9月4日に富山県に接近した大型台風21号。砺波市では「災害警戒本部」が設置され、梅檀野地区などに「避難情報・高齢者等避難開始」が発令されました。富山県は雪害を除けば災害の少ないところと認識されている方も多いのではないでしょうか。しかし、油断は大敵です。今後、地球温暖化が進むにつれて台風や豪雨はさらに極端になると予測されています。庄川の堤防決壊や越水もありうるのです。

平成30年7月豪雨による国内各地での土砂災害や洪水被害のほとんどは、地形的に被害が起こりうる場所で発生したと言われています。しかし、これまで大丈夫だったからといって油断してはいけません。地域の防災ハザードマップは、お住まいの市役所やホームページに掲載されていますので、危険性を知ることが大切です。



『患者さんの権利を守るために』

1. 当院では、病気を克服しようとしておられる患者さんの人権を尊重し、その経済的・社会的地位、年齢、性別、疾病の種類などにかかわらず平等で最良の医療を提供します。
2. 当院では、患者さんと一緒に病気を克服するために、患者さんが既に実施された診療の内容と、これから行われようとする検査、及び治療の目的、方法、内容、危険性、治療の見通し及び、これに代わる他の治療法について十分説明し、さらに患者さんの治療に対する希望もお聞きし、相互の理解を得た上で、医療を行います。
3. 当院では、患者さんの希望があれば原則として、患者さん本人にカルテを開示いたします。また、他の医療機関にかかり意見を求めるためや、他の医療機関に移られるときには全ての情報をお渡します。
4. 当院では、患者さんのプライバシーを守るために、患者さんの承諾なく当院の医療従事者以外の第三者に患者さんの情報を開示いたしません。
5. 患者さんの権利には義務と責任が伴います。

以上を守り診療することを約束いたします。

診療案内

外来診療受付時間

□ 新患 午前 8 時 15 分から午前 11 時まで

□ 再診 午前 8 時 00 分から午前 11 時まで

※診療科・曜日によって異なりますので、詳しくはお問い合わせください。

休診日

土・日・休日および年末年始